健常者の障害者スポーツ実施動機と障害者スポーツ支援
—日本車椅子バスケットボール大学連盟所属の選手を対象に—
Motives of Adapted Sports and Supporting Adapted Sports among Able-bodied Person

1K07A107-9

佐瀬 恵美

指導教員 主査 松岡 宏高 先生

副査 作野 誠一 先生

【目的】

競技化が進み、認知度も高まりつつある障害者スポーツにおいて、多くが健常者選手で構成されている日本車椅子バスケットボール大学連盟（GBP）が2002年に設立した。健常者である大学生が障害者スポーツに取り組む動機は、一般的なスポーツ実施動機とは異なるのではないかと考えられる。日本車椅子バスケットボール連盟（JWBF）が掲げる主旨は、「身体障害者の健全な心身の養成と社会参加および、障害に対する社会の理解を促進しバリアフリー社会の実現に寄与すること」であるが、GBP所属選手の実実施動機にこの主旨が反映されているかどうかについて確認することは、今後の障害者スポーツの普及、発展について検討するうえで重要である。

GBPに所属する健常者選手が障害者スポーツである車椅子バスケットボールを実施する動機を分析し、その実施動機の特徴を発見することで、健常者による障害者支援およびボランティアの獲得が必要とされる障害者スポーツと健常者の関係を明らかにしていくこと、加えてそれに有効となる基礎的資料を得ることを本研究の目的とする。

【方法】

GBPに所属する全204名の選手のうち、2010年9月18日、19日に大阪府立門真スポーツセンター（なみはやドーム）にて開催された日本車椅子バスケットボール大学選手権に大会登録した選手149名を調査対象に質問紙調査を実施した。回収方法は郵送法とし、回収期間は大会終了後から2週間とした。

計26項目を設定し、「1：全くそう思わない」から「7：非常にそう思う」までの7段階尺度で測定した。さらにボランティア活動経験および意欲に関して5項目を設定した。また本研究では、GBP所属選手が車椅子バスケットボールを実施している動機に関して以下「社交」「学習」「興味」「キャリア」「自己陶冶」「組織的義務」「社会的義務」「スポーツ」の8要素を用いて計測および分析を行うこととした。

【結果】

①得られた回収数は99部（回収率66.4%）であり、有効回答数も99部（66.4%）であった。②車椅子バスケットボールの実実施動機については、全体が平均値5.38と「スポーツ」要素が最も高い値を示した。続いて「社交」要素が全体平均値5.12、「自己陶冶」要素が

5.02を示した。比較的スポーツに興味・関心があり、スポーツとして障害者スポーツである車椅子バスケットボールを楽しみ、勝利や達成感を求めて実施しているという動機が最も高いことが明らかとなった。

また、ボランティア活動を経験している選手は経験のない選手に比べて、障害者スポーツや福祉に対する興味・関心を持ち（興味：平均値5.18）、将来の自身の仕事に活かすためのキャリアアップ（キャリア：平均値4.94）として車椅子バスケットボールを実施している傾向があることがわかった。

さらに、今後のボランティア活動意欲に関して、活動意欲がある選手は障害者スポーツに関する学習や福祉への興味・関心（学習：平均値4.81、興味：平均値5.31）、あるいは将来へのキャリアアップ（キャリア：平均値5.03）やGBPという組織への責任や義務（組織的義務：平均値4.01）を感じて車椅子バスケットボールを実施している人が多いという傾向が明らかになった。

加えて、次回大会への参加意欲に関しては、他選手との交流や自分自身の成長、あるいはキャリアアップ、そしてスポーツとして車椅子バスケットボールを実施している選手のほうが次回大会への参加意欲が強いという傾向があることも明らかとなった。

【考察】

JWBFが掲げる主旨を踏まえて、健常者が障害者スポーツを実施することとボランティア活動および意欲にはあまり結び付かないということがわかった。GBP所属選手はスポーツを楽しみ、勝利や達成感を求めて車椅子バスケットボールを実施する傾向が明らかとなったため、全国的な大会の開催を増やすことあるいは、選抜チームへの付加価値を高めていくことが有効である。また、女子学生やボランティア活動経験がある学生は、福祉および障害者スポーツへの興味・関心が高い傾向が明らかとなったため、障害者スポーツ現場での触れ合いやボランティア活動を通じた取り組みも有効であると考えられる。

今後は、急速に変化し、進化しつつある障害者スポーツの現状を把握し、理解していくなかで健常者と障害者というカテゴリーを排除し、ともに競い合い、ともに楽しむことができるスポーツの在り方を模索し、構築していくことが求められる。